

様式 2

平成25年度 安曇野市食育推進会議（第3回） 会議概要

1	審議会名	安曇野市食育推進会議（第3回）
2	日 時	平成25年10月7日 午後1時30分から午後3時30分まで
3	会 場	穂高健康支援センター
4	出席者	本郷会長、高橋副会長、中田委員、小室委員、手塚委員、松田委員、 宮坂委員、帯刀委員、豊田委員、保高委員、南沢委員
5	市側出席者	飯沼健康福祉部長、太田健康推進課長、高橋課長補佐、岩原管理栄養士、 渡邊保健師、太池歯科衛生士、小松管理栄養士、長田管理栄養士、 小川管理栄養士
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成25年10月16日

協 議 事 項 等	
1	<p>会議の概要</p> <p>(1) 開 会</p> <p>(2) 会長あいさつ</p> <p>(3) 協議事項</p> <p>① 食育推進計画（第2次）案検討について</p> <p>② その他</p> <p>(4) 閉会</p>
2	<p>審議概要</p> <p>① 食育推進計画（第2次）案検討について</p> <p>(会 長) それでは、食育推進計画（第2次）案、1章から3章の説明をお願いします。</p> <p>(事務局) 食育推進計画（第2次）案、1章から3章までの説明</p> <p>(会 長) 只今の説明に、ご意見ご質問等ありましたら、お願いします。</p> <p>(委 員) 3歳児でむし歯のない児の割合ですが、これは平成24年度のデータはないですか。</p> <p>(事務局) 市のデータはありますが、国と県のデータがありません。</p> <p>(委 員) 12歳児は出ていますね。確認してください。</p> <p>(事務局) 分かりました。</p> <p>(委 員) 平成24年度だけ少し上がりますが、これはなぜだか理由が想定できますか。</p> <p>(委 員) 本校では肥満傾向の子は減っていますが、他校で増えていると読み取れます。</p> <p>(会 長) 数人のデータがこのように出てきているのでしょうか。肥満については、以前肥満だったが完全に親の教育が行き届いて改善している家庭とそうでない家庭の2極化がある。全体的にみると以前より下がる傾向にあります。</p> <p>(委 員) 基本的な話ですが、この計画を推進していくのにいろんな部署がありますが、庁内検討委員会ってどんなことをしているのですか。保育園、幼稚園、学校は、具体的にいろんなことを進めていますか、それらは庁内やここで計画したものを下ろして行ってそこで食育を進めるということになるわけですか。ここで細かいことまでやっても分からないし、かなり時間も要するわけです。庁内で細かいことを検討してあって、ここで同じようなことをするのは無駄なような気がしますし、庁内検討委員会は具体的にどんなことをしているのですか。</p> <p>(事務局) 庁内検討委員会は、本会議にかける前のものを検討しています。庁内検討委員会で上がったことも反映しています。</p> <p>(委 員) 保育園、幼稚園、学校でかなり具体的に組織的にいろんな計画に従ってやっているはずだと思う。そのことと、ここと、別にやっているとということはないはずですが、しかし、こういう風にやってもらいたいと下ろしていくには、各学校ではこのことについてそんなに検討していないような気がします。学校でいろんな研究がありますよね。そこでここに食育をもってこられても困るってこともないのでしょうか、そういうものの関係ってというのはどうですか。</p> <p>(事務局) 食育推進計画につきましては、基本的には国の流れがあって、県が作って、市町村に下りてくるということなんですけども、基になっているのは、知育、体育、食育、この3つが基本的には教育の大きな柱であるところから基本的には始まっています。今の子どもたちの状況が大きな課題になるわけですけども、大人の状況をみてもやはりそういった食育をしっかりとやってこなかったために今のこういった食生活とか生活習慣があるということでも成り立っていますので、当然食育について</p>

てはそれぞれの部、課においてそれぞれの立場でやっております。例えば学校でしたらやっぱり生徒さんたちの食育をやってますし、保育園ですと園児の食育をやっています。それから農林部ですと地産地消の部分でやっています。そういうのが集まって食育という大きな枠組みでこの計画、塀を作ろうということでこの計画を作っています。ですのでそれぞれの主幹が集まって協議をしておりますので、それぞれ方向性の誤りがないようにということでやっています。ただこの細かい内容については、基本的なところに今回大きな課題として3つ上げさせていただいています。その3つは、国の作った健康21に食育は非常に大きな意味を持っているということでそういった内容を強くここに打ち出しているというのが、今回の第2次の計画です。この委員会の中では最終的にこれを市民の目指すべき姿として規定をしますので、この内容について細かいところ大きな流れについても両方みていただくという考え方になっていきますので、細かいところはやってあるからいいんじゃないかというよりは、そこも含めて全体の流れを見ていただきたいと考えております。

(委員) 各学校から食育の委員がこの庁内に反映されていると考えられない。多分それは大変なことですね。食育、大事なことだけでも具体的にそのことでやり取りはないんじゃないですか、実際には。

(事務局) 委員は、給食センターの栄養士さんに出てきていただいたり、立場立場で出ていただいておりますので、その方を中心にこれに対する疑問点、載せるべき事項を出していただいているという風に考えておりますので、もし足りないところがあるとすれば具体的にどのようなところなのか、再度フィードバックしなければいけませんので教えていただければと思います。

(委員) 保育園や学校に丸投げするというのは変だけれど、ここで検討してこんな問題があるのだけれど、こんなことを反映して具体的に進めていく上で安曇野市の各学校で検討してもらおう風にして、そういうことも大事なことじゃないかと思えます。学校の細かいところは分からなくても国の施策が出ているので、細かいことも具体的に検討してもらおうような機会も。保育園で集まってやるのか予算付けをして会議、講演をするとかPTAも大事ですね。ここから直接あまり働きかけられないんだけど、各学校の行事になることもありますのでね。能率的にそれぞれの専門性を生かしてもらおうといい。

(事務局) 食育推進計画の各施策ですけども、ライフステージに応じた取り組みという分類で第1次の時から作っているんですけども、そういう中で学校、また保育園等にはライフステージの一部としてののっかってきますので、任せるというよりはそういう中でどういう取り組みをしているのか、具体的に何を目標としているのか、ということはこの食育の全体の流れの中に規定をしていくということが正しいのではないかという風に考えております。ここにのっけることは整合性があるのではないかと思います。

(委員) 各行政機関で食育の情報を提供してやっていますよね。保育園、幼稚園でもかなりのことやっていますよね。それを参考にして安曇野市の学校もやれば良いと思うんだけど、あまりそれは参考にする風はないようだし、うまく情報交換してやれば良いなと思えます。

(会長) 貴重なご意見だと思います。学校現場とも密に連絡を取り合いながらやっていただきたいと思えます。特に安曇野市でこの辺りが問題点だとか、この辺りが全国的にも県の中でも優れているのでより進めたいとか、こちらの方がまだ問題が大きいのでより重点的に取り組みやすいとかそういった辺りを強調して言っていただくとより分かりやすいかなと思えます。

(事務局) 第2次計画では、生活習慣病予防というところに一番重点を置きたいと思っています。安曇野市の課題としては、高血糖が多いということ、メタボリックシンドロームが多いということ、あと肥満とやせの問題ですね、ここを重点的にどういう取り組みをしていけば良くなっていくのかということなどで進めていきたいと思っています。これは大人だけが問題ではなくて、子どもの時から始まっていることなので、そういった点で取り組んでいきたいと思えます。あと、孤食とか朝食欠食とかそういったところも、孤食をすることで大人と一緒に食べる機会がなくなって、そこから体験することがなくなることもいけないことだと思うので、そういったところも取り組んでいきたいんですけど、一番は子どもの頃からの生活習慣病予防ということで考えていきたいと思っています。

(委員) そういうことが問題になるだろうという切り口からこれ実態調査をしているわけですよ。私はそういうことじゃなくて、私退職して20年にもなりますが、そういう人たち暇だからごはん作れば良いんだけど、奥さんがやって、病気になった時に奥さんの苦勞が分かったとかね。今更そんな研修を受けてとか新聞にも載ってましたけど。そうではなくて小さい時から自分で食事を作るとか、お母さんのお手伝いをするとか、皆で楽しく家族なんだかんだで人間関係良くしてくとか、テレビなんか消して楽しく食べるとか、そういうようなことを基本にして、メタボリックがどうのこうのと健康面はいいんだけど、それを主にするんじゃないかと楽しくとか、だんだん身に付くような小さい時から食事を作っていきようなことを協力してお手伝いをするとか、そういう家族の人間関係、そちらに重点を置いてやっていくということ、これ一般的なやつなんだけど、そういうことを一つ柱に置いていただければと思って聞かせていただきましたがどうですか。

(事務局) 4章から施策になりますが、その中で小中学校の取り組みとして料理を体験するというのも入ってきます。

(会長) 3章までは現状と評価というところでしたが、4章からの説明をお願いします。

(事務局) 食育推進計画（第2次）案、4章から資料までの説明

(会長) 只今の説明に、ご意見ご質問等ありましたら、お願いします。

(委員) 壮年期・前期高齢期で肥満の増加、メタボや高血糖について他市に比べて高いと言われていました

が、市では保健指導ということで、健診結果の異常者に対して指導を重点的に行っているのに比率が高くなってきているというのは何か原因があるのですか。

(事務局) 高血糖についてお話しします。実は合併当時から安曇野市の方は6.1以上という治療域の方ではなくて、お医者さんの方では治療の段階にならない方たちが非常に多いというような傾向があって、重点的に取り組んできたところですよ。19市の中ではヘモグロビンA1cの出現率が6位と上から数えた方が早いというような状況ではあるのですが、以前はもっと高かったのです。これを3~4年前から重点的に取り組むことによって悪いなりに少し良くなってきて、その前はもっと高い位置にいてやっここで少し結果がみえたかなという状況です。全体とするとうちでは中性脂肪だとかHDLとかヘモグロビンA1cとかメタボリックだとか非常にこの辺が高くて悪い状況ではあるんですが、ここを重点的になんとか保健指導をやって1~2年でなかなか結果が出ないものから、取り組んで3~4年でやっ少し結果が出てくるという状況なので、まずヘモグロビンA1cから頑張ってきて、それからもっと悪い方たちをたいてくるようなことをやっていますので、健康づくり計画の方でも10年くらいでやっしてくるんですけどもやっぱり5年くらいやらないと結果が出にくいのかなという状況です。

(委員) 健診の異常者の保健指導の比率っていうのは高いんですか。

(事務局) 特定保健指導の実施率は、全国よりも高い状況ではあります。長野県高いので、うちが特別うんと高いかというとは実は70とか80%ってところもあるので、そこまではいきません。40%なんですけども、割合平均値はいつてるかなと思います。それともう一つは特定保健指導にならなくても、非常に異常を示す方、痩せてるけど異常を示す方については、うちの方では一定のルールを作っこれより値の悪い方たちは全員保健指導をしようということをやっていますので、その方たちはもれなく落とさずやるような形で健診の結果を届けたりだとか、説明をしたりということでは力を入れています。

(会長) ヘモグロビンA1cなんかは松本市で高い人50%くらい、安曇野市は以前8割、それより若干78%と出ているので少しずつ下がってきていると。そんなところで他の市町村でももっとも高いところをいくつか私もご相談受けたりしているとこもあるんですが、松本市はちょっといいんですが、ですからそういったような方は、脳梗塞とか心筋梗塞になっておられる方が多いと、すぐ結果は出てこないんですよ。ゆっくり時間かけてじゃないと。そういったところを重点的に取り組んでおられるということで、6位に下がったんですよ。まだこれ危機感をおぼえないかもしれませんが、中性脂肪の1位とか、これは外食の問題とか肥満とかいろんなことがそんなに感じないけどこれもほっとくと大変なことになるので、メタボリックとかヘモグロビンという皆少し知ってるものからビックリしますが、HDLが低い方で2位って私が考えますと心筋梗塞になってしまった患者さんかなりみえますが、皆低いですよ。だからこういうのほっといていいのかなって思っちゃいますね。タバコと肥満を是正するというのがHDLの働きなんですけど、もう取り組まれているんじゃないかと思いますが、まだまだ課題はいろいろあると思います。

(委員) 私は食生活改善のボランティアの事務局をしております、目標としては、異常値が出る前に皆さんに良い食事や運動を普及していこうという団体さんで、ここにも食改さんいらっしゃるんですけども、一番ベーシックなところにいる生活習慣を身につけようという活動をしていらっしゃる方たちのバックアップをしています。安曇野市さんが個別に健康教育をしっかりとなさっていて少しずつ効果が上がってきているというのは素晴らしいことだと思いますし、これからは異常値が出る前、リスクが出る前に皆さんにそういった良い習慣というのを身につけてもらうような活動に力を入れていただきたいなことを思っています。というのは、長野県としてもこういった団体がバックアップ、こういった食生活ボランティアさんを増やしていくということを大きな目標の一つに掲げています。こちらの計画では、食生活改善推進協議会さんの普及活動と育成について載っていますが、育成というのは入っている方たちが勉強する場を作るという意味なんです。私、安曇野市の食生活改善推進ボランティアさんの人数の変化というのも保健所にあったグラフでみてみたんですが、平成10年377人いらっしゃった方が、10年後合併して276人ということで100人減少しています。今年は200人余りということで、4~5年でそれよりもまだまだ80人減っていて、ボランティアさんなので強制してやっいただくわけではないのですが、ぜひ養成を。市民の皆さまに呼び掛けて病気になる前に、健康な方たちに、健康に関心があったり、そういう方たちに呼びかけてベーシックな教室をして、ボランティアとして市民に呼び掛ける役割を担っていただきたい。そういう方たちはきっと自分だけではなくて家族の健康、子どもの健康、地域の健康ということに広く目を向けている方たちだと思うので、養成をこの中に入れていただきたいなと思います。保健所でも今養成は年間に1コースずつ他の市と一緒にやるための予算と人を付けています。今年も1地区やっておりますので、もしできれば来年以降こういった中で安曇野市さんの方でできるような予定があるなら、一緒に協力し合いながら病気になる前に予防という形をつくれるものを計画していただきたいなと思います。

(委員) 後期高齢者の目標に、適正体重の者の割合を増やすとか、一人の者が持つ平均歯数を増やすとか、しっかり噛める者の割合を増やすとあるけども。私80歳だけご飯を作っています。急に奥さんが倒れて乾パンで暮らしてるとか聞いたことがある。今更そんな勉強したくないとか。私この際手を上げてそういうボランティアを立ち上げたいと思うんですよ。そういう具体的なことでやっていか

なきやだめだと思う。

(委員) 食改さんに男性会員さんいらっしゃいますので、どうぞ。

(委員) 募集してます。以前は安曇野市でも食改に入る前の人たちの講習会をやってたんですけど、今全然やってないのでお願いしたいと思います。

(委員) 適正体重の子どもの割合を増やす、大人と一緒に食事をする子どもの割合を増やす、朝食を食べる子ども割合を増やす、学童期からずっと上がっているが、これどうやって増やすのが問題だと思います。食育を進めていくことだと思うんですが、歯を増やせといっても、どうしたらいいのか分からないところがあるので、手立てを書いた方が具体的でいいと思う。

(会長) 健康についてもっと早い時期からいろんな方が取り組みをしていただくようにというご意見がありました。そのお考えもとてもだと思いますが、何か具体的なものありますか。食事を作るというお話もありました。私は、大人になってからタバコを吸っている人に止めてくれと言っても絶対止めないという人いっぱいいるんですね。なかなか難しいのでできるだけ少しでも残ってもらうように子どもの内からいろいろ努力しましょう。全員は無理なので。大人になってから人格ができて絶対にやらないって人もいっぱいいる。そういうようにいかせるにはいろいろあるし、教育の中で一つの取り組みとしては、やらせていただいている。将来のことを期待しているというか、少しでも減らしていく。成果ばかり期待できないんですけども。私たちの頃から言わせてもらおうとタバコの教育なんてまったく学校ではありませんでした。先生皆吸ってました。現に先生で心筋梗塞になって私の外来通ってらっしゃる方、今もいるですよ。今の大学生に聞くと40人くらいいてタバコ吸うのは4~5人。実際に小学校の時から教育があるみたいですね。ですから全然そういう教育は昔とは違ってきている。料理にせよ何にせよなかなか仕事忙しい人がどこまで振り向いてくれるか。そういったこともあるのでできるだけ早い頃に病気になる前に言ったら、明日からやるのがいいんですけども、どういう年代に特に重点的にやったらいいのかわからないのは、私の一つの考えでしかないんですが、その辺を皆さんにご意見いただいて、今できるだけ早い時期にということで、その通りだと思う。

(委員) 調理師会では、味覚の一週間というフランスで10年程前から始まった運動がありまして、苦い甘いしょっぱいとかそういう教育を去年は堀金小学校でやった。今年は豊科北小学校でやる。実習をやりながら3時間授業をやるんです。その時にその食育の関連で、一人で物を食べないとか、朝飯は食べてくるとか、家族団欒とか、テレビを見ながらご飯を食べないとか、いろんな話をしながらラタトゥイユを作ったんですが。子どもの感じ方が1時間目と3時間目ではだいぶ変わってきまして、当然いろんな話がありますよね、子どもと一緒に会話しながらやってきますので。今年はその間にタバコのことを入れた方がいいんだろうかと、飲酒のことを入れた方がいいんじゃないかなと思います。なんで始まったかという大人に教育しても言うこと聞かないんですよ。それなら小学生にやろうということで、フランスでまず始まって、日本では結構有名な方々が主催してます。たまたまフランスのメーカーからフライパンと鍋が寄贈されるものですから、小学校としてはいい。教育委員会を通して安曇野市全部を回ろうという話はしています。

(委員) 調理師会の話をお聞かせいただきまして、一つ思ったのは、お母さんたちに話をしても効果がみえないので、子どもに話をということをおっしゃっていましたが、確かにごもつともだと思いますけども、逆に言いますと、子どもは教育されるとそういうもんなんだ、いいもんなんだ、すごいなって思うと思います。その時は。それを家に帰って実行してもらえるかということになると、やはりそこは親の力が必要になるかなと思うんですね。で調理師会さんのその活動を親子でやることのできるようであると、親も意識が高まっていくのではないかなと思うんですけどもそれは子どもに対する小学生に対することなんですよ。

(委員) お母さん、一クラス38人位いるでしょ。それを全部やるって大変なんですよ。はっきり言いますと言うこと聞かないと思います。子どもより。必ず違うこと言うてくるんですよ。口答えします。子どもは口答えしません。授業やる時、うるさいという先生より怖いみたいで静かになるし、ちゃんと言うこと聞きますよ。なかなか大人の人には教えるのは難しいです。やってやれないことはないけど、そうなる一クラスになっちゃうしね。いちお3. 5年生3.4クラスあるので手分けして12人でやるから。っていうのもっとたくさん人数集めないといけないし、なかなか調理師会も営利団体なのでボランティアで出てくる奴少ないんですよ。できたら市の方でやっていただければいくらでも協力はします。

(委員) やはり一回自分の受ける形ができてしまうと、それを変えるのは難しく、いくらいと分かっているでも自分のやり方になってしまうのはあるのかなと思います。やはり子どもが親に対して言えることもあるかなと思いますので、地域全体でそういった活動を増やして、1回聞くより2回、2回聞くより3回、何回も聞いていけば親も歩み寄ることも出てくるかなと思いますので、そんな活動が増えればいいかなと思います。

(委員) 給食センターの先生や養護の先生も一緒に参観なさるそうです。

(委員) 一点だけ確認させていただきたいのですが、地産地消について関心を持っている人の割合の増加についてのDだと。分析には、そのことについては触れていないのですが、食育の推進を行っていくのに表裏一体のものが地元の物を顔の見える物を食べていくというのが口から取り入れるという点で非常に重要なと思うんですけど、その対策が見てとれないので、もし対策等がありましたら教え

ていただきたいと思います。安全・安心な地元農産物の普及という地産地消の推進と農政課の方から提案を頂いたりということで、数値的なメタボリックというようなものも周知徹底をしていかなければいけないと思うんですが、地産地消ということで取り組みをする中ではすぐに思い付くのは学校給食ということにはなるんですけども、なかなかそれだけだと十分だと思ってなくて、学校給食に使ってもらうには、規格だとかいろいろたくさん乗り越えなければいけないものが結構あるので、積極的に家庭でも使っていただくということがいいなという風に思うのですが、そういった面で見えていくと計画の推進体制のところでもそういったものが入ってきていないので、どういう形で今後展開的な部分で取り組みをしていくのかなという質問です。

(事務局) 地産地消の推進ということで農政課からの対策を載せてあります。農政課の方にも地産地消に関心を持っている人の割合が少ないということで相談をしたんですけども、直売所の利用を促進するという働きかけで改善できたというお答えでした。直売所の利用促進のところには直売所マップを配布しますって書いてありますが、それ以外にも直売所のスタンプラリーを毎年実施しているそうです。期間を決めて直売所を回ってスタンプを押してもらって、応募をして景品をいただくというような企画もやっているそうなので、そういったところで地元の物を食べる機会が増えていけば地産地消に関心を持たない人たちの改善にもなるかなと考えています。

(委員) 私も委員の中には入っているんですが、直売所のスタンプラリーについては、買っていたくので地産地消だと思うんですが、何年か前から学校給食にその食材を提供するというので、いろいろな団体が自分のところで作ったりご当地とか、グループで作ったものを学校給食に納品したりだとかということをやっているんですが、そのことについては広がりを見せていかないというか、使用量が増えていかないというか、いろいろな親御さんにしても、お孫さんをお持ちのおじいちゃんおばあちゃんが自分の孫に美味しいじゃが芋等を食べてもらいたいということで作りたいという意欲はあるんだけど、なかなか窓口がないよということがあるもんですから、農政課なり学校給食課なりいろいろなセクションがあると思うんですが、やっぱりそういったものが一元に生産している者、食べてもらう者の流れが、もうちょっとスムーズにいけばいいなという風に個人的に思ったりもしています。そのことがここ数年来増加の解決に至ってないっていう感じに思える。アドバイザーができたり、市民農園で自分で作るとかいうことですか、直売所には足を運んで買っていたくという効果はあると思うんですが、それを作ったら使ってもらおうとか、それをどういう風に利用してもらおうとかいうところがまだ練り込んだ方がいいなという印象を持ったものですから。

(事務局) 実はこの地産地消って食育の中で非常に大きいものだろうと思っています。先日農林部長と話をした時に本当に地産地消って進んでるのか、地元の物を皆さん買って食べてるのか、スーパーマーケットに行くと、地元の野菜のコーナーと近隣の県から来た物と輸入した物と並んでるわけですね。どれを皆さん選んでるのか知ってますかっていうことを聞きました。結果的には皆さん地元の物を生産者の分かっている物を食べたい、けどお金を見ると何分の1かで中国産が売っている。となると、その日の家計によってどっちを選ぶかが決まってくる。地元産の有意性というのをもうちょっとアピールしなきゃいけないんじゃないですかということ、これがいいかどうか知りませんが、一つの指標として栄養価はどうなんですか。残留農薬はどうなんですか。味はどうなんですか。そういった指標っていいのは何かあるんですか。っていう風に聞いたんですね。やっぱりこれなかなか行政側でそれを規定するのなかなか難しいし、ある意味生産者サイドとして自分の商品に自信を持って、消費者に受け入れてもらうための取り組みっていうのはどんな取り組みがあるんでしょうか。どうせなら検査してもらえませんか。チェックしてもらえませんか。生産者の中に抜き取りで調査したらどうでしょうか。っていう提案を実はさせてもらいました。そういったものが本当に出せるかどうか。非常に微妙だとは思いますが。ただそういったことをやって消費者に地元の物はおいしくて安全だよ、栄養価も高いよ、だから丸丸全部使えるんだよ。そうすればトータルで見れば安いじゃないって。そういうような取り組みができないかなということは実は話をさせてもらいました。農協さんにちょっと相談してみるとは言っていましたけども、ぜひせつかくお見えですので、自分の安曇野市の農家の売るべき商品であり、農産物について他との比較、有意性を示すことをぜひしていただくのも一つかなと思っています。それを含めてそういった野菜のその時その時に採れる野菜って決まっちゃいますよね。そうするとその料理の仕方についてそればかり続くと嫌になっちゃいますから、でも料理の仕方でも変わるものもあるし、そういった取り組みの中で地産地消も進むんじゃないかなと考えましたので、それは行政同士の話の中でもう少し各年度計画の中で少し詰めていきたいと思っています。

(会長) ありがとうございます。そういったことで進めていただくようお願いします。

(委員) 健康づくり推進協議会の方からここに出させて頂いているんですが、健康づくり推進員というのは安曇野市の中でボランティアと思って、市の地区から推薦されて出ています。合併前はすごく多かったんですね。各地域の健康づくり推進員はすごくいて、健診を受けるかどうかということまで聞いて歩いたりした。2年毎に交代するもんですから、いろいろな世界の方とかいろいろな人がやっていただけるんですね。一番抜け落ちる30～50代の方もそのところに入ってくるんですね。だからここにも書いてあるんですけど健康づくり講演会っていうの。健康づくりには食事と運動なんですけど、こここのところの健康づくり講演会のところには健康づくり推進員の役割を載せられないかなと思ったんですけど、どうですか。

(事務局) 確かに今お話をいただいたように食改さんは、具体的に食のことを地域で広めていただいているというところで重要な団体だと思います。それともう一つ推進員さんというのは、地域から選ばれてきて2年の任期を経てやるという当たりでは、非常に地域の学習を底上げしていただいている団体だと思いますので、確かに食のことを含めた勉強会ってやっていただいているものですから、少しここについては検討させていただきます。それと先ほどの養成についても、ここに育成というのがありますが、それを含めてこのところ対策と施策、内容を加えさせていただければと思います。

(会長) そういうことでよろしくをお願いします。

(委員) 青少年期の目標値に1人平均むし歯数(永久歯)の減少とありますが、中学1年生ですよ。これ中学3年生とかはないですか。中学1年生って永久歯に変わったばかりだから、むし歯がないって当たり前なんですよ。中学3年生くらいに目標値を出すという意味があるかなと思います。

(事務局) 学齢期の指標として健康づくり計画とか国の方の評価とかも12歳児でやっているの、それに合わせています。

(委員) それは分かっているけど、中学3年生はないかと言っています。

(事務局) 中学3年生の方がいいということですか。

(委員) 意味があると思う。

(事務局) データはありますが、国や県との比較をするのにこれを上げたということなんですけど。

(委員) それは分かっています。

(事務局) 市内のデータを追加して併記します。

(委員) 中学生って、反抗期で歯を磨くの嫌だなんていう子どもたちが出てくる時期を過ぎてどうなるのかなっていうのを目標として出していいただければ意味があるかなと思います。

(会長) 食育推進計画の案については、これでよろしくをお願いします。

② その他

(会長) それでは、その他についてをお願いします。

(委員) 小学校の学校歯科医をしているのですが、給食のメニューがありますね。メニューをいろいろ考えているじゃないですか、メニューに栄養士さんのこだわりをこのメニューにはこういう意味合いがありますよっていうコメントを付けていただくと子どもたちに愛が伝わるかなって思うんですが。これはたくさん噛むためにこのメニューだよ。ちょっと肥満予防のためにこのメニューだよという思い入れが栄養士さんの中にあれば、それをコメントとして書いていただければ子どもたちはそれをそうなんだねっていう風に思ってくれると思うんですけど。ただ保健室に貼ってあって今日は唐揚げだとかっていうのだけじゃちょっと意味合いが少ないかなと思います。

(委員) ここには学校の栄養士がいないので、保健所の栄養士ですが代弁させていただきます。学校の栄養士は1回1回の食材、給食を教材として一生懸命提供しています。だから学校に行く時にもちょっとしたおたよりを付けたり、給食だよりは必ずいろんなコメントをのけたりしているの、非常に想いがこもっているし、ここには栄養教諭の先生がいらっしゃる給食センターもあるので、給食センターに行ってみると、君たちが大きくなっていくにはこういう過程があるんだよとか、いろんなものが展示してありますので、学校としてはそういうのが行き届いているんじゃないかと思っただけなんですけど、そうではないのでしょうか。

(委員) 学校毎、給食センター毎に違うんですけど、毎日給食の食器の中に小さなおたよりが入っています。今日の給食はこういうことだと小さなお手紙がたくさん入っています。その裏に子どもたちが今日の給食美味しかったですとかお手紙を書いて返す学校もありますし、それぞれの給食センターによっても違いますけども本校の場合は、例えば6月1日から10日までむし歯予防週間がありますのでとお願いすると、栄養士さんがカミカミメニューを考えてくださって、スルメを使ったサラダですとか日々立ててくださいます。今日の給食はこれが歯によい物ですというようなことを子どもたちに紹介してくださっています。

(委員) かなり盛りだくさんなことが書いてあるんですよ。ただ注文としてはアンダーラインを特に重点な部分にしてもらおうと助かると忙しい先生方言っていました。

(事務局) パブリックコメントについての説明

(会長) 只今の説明に、ご意見ご質問等ありましたら、お願いします。よろしければこれで終わります。

※会議概要は、原則として公開します。会議終了後、2週間以内に企画財政部まちづくり推進課へ提出してください。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。